

【ホームページ用 Q&A】

Q1、離島で産科・NICUがあるのは県立大島病院のみですが、ミルクや分娩等に使用する資源のストックはどれくらい必要ですか。

A1、通常は3日分の備蓄ですが、離島の場合は約7日分程度の備蓄が望ましいとされています。備蓄だけでなく、周囲から物資が供給される仕組みを平時から準備しておくことが重要です。

Q2、災害訓練はどの程度の頻度で実施していますか。

A2、石巻赤十字病院では以下の頻度で実施しています。

- ・大規模訓練（消防・警察等）：年1回
- ・行政との訓練：年1回
- ・救護班訓練：年1回
- ・避難所設置訓練・地域住民向けイベント：適宜実施

Q3、効果的な訓練にするためポイントは何ですか。

A3、参加者のレベルに応じたシナリオ設定を行うことで、成功体験が得られ、実践的な訓練になります。

Q4、災害時に安心して行動できた要因は何ですか

A4、統率者（院長）が「実践に関する責任はとる」と明言してくれたことで、後ろ盾ができ安心して行動できました。これは、日頃からの心理的安全性の高い職場環境によるものと考えられます。

Q5、実際に役に立たないと感じるBCPを改善するにはどうすればよいですか。

A5、実際にBCPを動かしてみることが重要です。実践することで課題が明確になり、修正すべき点が見えてきます

Q6、訪問看護先で災害が発生した場合のシナリオ設定をどこまで設定すればよいですか。

A6、訪問看護先での発災を想定した訓練をまず実践してみて、課題を整理します。

Q7、災害時に処方薬が不足する可能性があります、事前に処方してもらうことができますか。

A7、災害を見越した事前処方認められていません。そのため、災害発生時には薬剤師会と連携し、早期に処方が出せる体制づくりが必要です。(薬剤師会との訓練など)。

Q8、災害シミュレーション訓練は現場で実施していますか。

A8、石巻赤十字病院では、通常の救急診療に影響がないよう救急センターと同じような別の施設(原発訓練施設など)でシミュレーションを実施しています。

Q9、災害時の共通用語はありますか。

A9、特定の用語よりも、確実なコミュニケーションを取ることが重要とされています。

Q10、災害発生時は、内視鏡洗浄に使用されている劇物のエスサイドは横に倒れたら液漏れし、パッケージも腐敗していきます。そのまま置いてよいですか。また、中央材料室内のガス滅菌に使用しているボンベも身体的影響があるガスですが。

A10、劇物を含む身体的影響がある材料を置いておくことは、発災時の二次被害の拡大に直結すると考えます。しかし、ご施設の事情もあるかと思しますので「使用しないで」とも言えません。転倒・飛散予防を行う等「対策を取って使い続ける」が現実的な方法かと思えます。